

(様式1)

令和5年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

		学校番号		23					
(1) 学校教育目標		「学業の練磨」・「人格の陶冶」・「体力の養成」の校訓のもと、真理と学問を尊重し、心身ともに健康で、国際社会の進展に寄与すべき、積極有為な人材を育成することを教育目標とする。本目標を達成するため、能力と個性に応じた教育活動を通して、「知性の深化」・「徳性の涵養」・「個性の確立」・「自律心の養成」・「心身の鍛錬」の実現に力を置く。また、校是は「規律ある進学校」・「文武両道」である。		学 校 名		青森県立三本木高等学校			
				全日制		制課程		本校・校舎・分校	
(2) 現状と課題		本校は、各方面で活躍する多くの人材を輩出している。令和8年に創立100年を迎える伝統校である。県内唯一の県立併設型中高一貫校として、また、本県の重点校として、大学進学や部活動などの実績に地域から期待が高い。しかし、少子化の進展による地域の子どもの減少や鉄道の沿線沿いでないという立地条件等から、入学志願者の減少が続いている。今後、併設型中高一貫校の特色を活かしながら、志の高い入学志願者を増やし、大学進学指導の重点校として地域の期待に応える教育活動が求められている。		自己評価実施日		令和6年2月16日(金)			
				学校関係者評価実施日		令和6年2月22日(木)			
(3) 重点目標		1. 併設型中高一貫教育校の特色を活かす系統的な教育活動の展開 2. 心身共に健康で豊かな心を持つ生徒の育成 3. 確かな学力を育む教育の充実と生徒の適性に応じた進路実現 4. 理数教育及び語学教育の充実と探究型学習の推進 5. 開かれた学校づくりの推進 6. 快適な職場環境を醸成する		(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成		地域の多彩な有識者で構成される学校評議員会を学校関係者評価委員会として位置づけている。 学校評議員 5 名（地域企業代表 1 名、大学関係者 1 名、保護者代表 1 名、後援会代表 1 名、学校協力者 1 名）			
(4) 結果の公表		本校の学校評価は、職員・生徒・保護者・学校評議員を対象に年1回「学校評価アンケート」を実施し、評議員会で評価結果を説明している。また、本校ホームページにおいても公開している。							
		自 己 評 価		学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策			
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等				
1	① 高校と附属中学校間、学年や分掌及び教科間の連携と協力の強化 ② 中高6年間を見通した教育計画及び教育活動の充実・発展	① 会議や諸行事（進路講演会、芸術教室など）の実施を通して高校と附属中学校間の職員の連携を密にする。また、中高合同教務会議を開催し、早めの計画と連絡調整を行い、中高それぞれの教育活動が円滑に運営されるように努める。 ② 高校教員による附属中への授業を継続して行う。	① 中高別開催の行事が多かったが、中高で職員会議や合同教務会議を実施することにより、学校運営に必要な情報を共有できた。 ② 高校教員による附属中への授業を継続して実施した。英語・数学の先取り学習、社会の授業で身に付けた学力を伸長させ、進路実績向上に貢献した。	B	① 中高一貫校のメリットを意識した教育活動を意識し、中高教職員の相互連携をより強めて欲しい。 ② 中高生徒間の懇談等（コミュニケーション）の機会を増やして欲しい。生徒の習熟度を正確に把握しながら、積極的に先取り学習を進めて欲しい。	① 中高合同教務会議は継続し、学校行事の検討や新学習指導要領の研究に努め、併設型中高一貫教育の充実と新教育課程における評価規準について各教科の共通理解を図る。 ② 高校教員による附属中への授業を継続するとともに、英語・数学ばかりでなく、理科・社会の先取り学習を検討する。そのうえで、附属中学生が多くを占めるGSコースにおける課題解決学習を充実させ、総合・学校推薦入試における難関大学合格者増を図る。			
2	① 自らを律し、他を尊重する、品格ある行動様式を備えた生徒の育成 ② 文武両道をめざした学校活動への積極的な参加 ③ 特別な配慮の必要な生徒への教育相談委員会等による支援体制の構築	① 基本的な生活習慣の確立をめざし、教職員全員の共通理解のもと、統一した生徒指導を行う。 ② 礼儀・挨拶・協調性等を重視した人づくりを目標に部活動を行う。また、「部活動に係る活動方針」により、週1日の部活動禁止日を含む年間104日以上（1週間平均2日）の休業日を設けることを徹底し、文武両道の実現を図る。 ③ 日常的な生徒観察と教員間での情報共有を行い、配慮の必要な内容を確認し、教育相談委員会、スクールカウンセラー等と連携して共通理解を図り対応する。	① 生徒指導部が中心となり、学年間で差のない生徒指導を実施している。 ② 部長会を通してチーム三本木としての連帯意識を高め、各部が挨拶、清掃、部室管理等に主体的に取り組んでいる。また、「文武両道」のスローガンのもと、進学実績ばかりでなく、東北大会・全国大会に出場する部が増えた。 ③ 生徒観察、面談、学校生活アンケート、保健室からの情報提供等により配慮の内容を確認し、教育相談委員会、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、特別支援学校、医療機関等と連携し、組織的に対応した。	A	① 規則や学習課題などで生徒を縛り、生徒・教職員ともストレスを増やさないようにして欲しい。 ② 部活動は異年齢（先輩と後輩）の人間関係を学ぶ場であるため、積極的に推進して欲しい。 ③ 不登校生徒が増えている状況は憂慮している。原因を把握し、その対策に学校全体として取り組んで欲しい。	① 時間厳守・挨拶・清掃の徹底を中心に「規律ある進学校」の推進のため、校内外における生活規律の確保に努める。 ② 「部活動に係る活動方針」に沿った活動の推進、部活動に打ち込む生徒への支援、部活動と学習の両立を図る。 ③ 日常的な生徒観察と情報共有の徹底により、配慮の必要な生徒の早期把握と教育相談委員会及びスクールカウンセラーとの連携を強化する。			
3	① 授業第一主義と家庭学習を促進する指導の工夫改善 ② 高い意識と志望を持たせるキャリア教育の組織的・計画的推進 ③ ICTを活用した授業改善を通して、新しい時代に求められる資質能力の育成	① 校内研究授業・互見授業等を通して指導法の研究を行い、個々の授業改善を図る。学年と教科の連携により家庭学習のための課題の量を掌握し、質を高める。また、苦手科目克服のため「学び直し」ができるようスタディサブリを導入し、幅広い学力層に対応した指導を行う。 ② 生徒の主体的な進路研究を促し、進路意識の高揚を図る。また、国公立大学進学率の向上と難関大学及び医学科志望者への指導を組織的に行う。 ③ 生徒に配布されているタブレットを活用した学習を実践する。	① 校内研究授業・互見授業等を通して授業改善と指導力向上に努めた。学年と教科が連携し、家庭学習のための課題を調整し、自学の習慣化に努めた。 ② H R活動、面談に加え、総合的な探究の時間等を通じて進路志望達成の意欲を高めた。 ③ タブレットを活用した学習、Google Classroomを利用した課題の配布などを行った。	A	① 詰め込み型教育に勉強の意義を見い出せない生徒は、勉強が遅れていくと思う。 ② 進路指導は生徒の多様性に配慮して行って欲しい。 ③ あらゆる職場においてICTを活用し、業務の効率化が図られている。学校も積極的に活用し、授業の効率化、改善、さらに業務の負担軽減につなげて欲しい。ICT教育は保護者へ内容が伝わりにくいので、学校HPなどでわかりやすく現状を発信して欲しい。	① 生徒の学力を把握し、学力に合わせた課題の質と量を工夫改善する。 ② 進路行事が円滑に行われるよう、他の分掌との連携を強化し、生徒の進路希望に柔軟に対応できる指導体制を構築する。また、進路資料および関連文献の整理を行い、教員が活用しやすいよう整備する。 ③ Google Classroomを課題の添削や解説に活用し、個別指導の充実を図る。			
4	① GSコース及び普通コースそれぞれの特色を活かした探究型学習の充実と発展を進める ② 外部専門機関と連携した理数教育及び語学教育の一層の充実	① SSH事業で培われた探究活動のノウハウを1、2学年のGSコースで受け継ぎ発展させる。また、普通コースにおいても総合的な探究の時間における探究活動を推進する。探究活動は全生徒が取り組む「あおり創造学」の活動を中心とする。 ② 「進学力を高める高校支援事業」の一環として、英語の授業をすべて「英語」で行う授業を行い、英語を通して情報や問題を理解し、自らの意見を発信できる授業を実践する。また、附属中の数学・英語での先取り学習を引継ぐ。	① 1学年GSコースは、大学・企業から講師を招き基礎的探究力・表現力を高めた。2学年のグループによる課題研究はその成果を校内や大学等で発表した。普通コースにおいても年度当初の計画どおりに実施することができた。「あおり創造学」は1学年全生徒が取り組んだ。 ② 講師として東京学芸大学名誉教授など、外部教員も交えたオンライン開催を含め、年間3回の研究会を開催し、英語4技能評価に対応できる本校独自の英語授業である「三本木メソッド」の研究を進めた。また、GSコースの数学・英語において速習・標準のクラス分けを行い、学力の伸長を図った。	A	① 探究活動の発表会は、難易度の高いものもあり、刺激を受けた。普通コースも探究活動をさらに進めて欲しい。自分自身が興味・関心を深め、また、進学習目標を定めるきっかけになる。自分で考え、それを他人に伝えられる。また、友人や大人などと正しくコミュニケーションを取ることでできる人物を育てて欲しい。 ② 数学を通した合理的・科学的思考の涵養が必要だろう。また、英語ばかりでなく、国語の学力を高めて欲しい。	① GSコースについては、引き続き各分掌・学年・教科などの担当者と連絡を密にして運営する。特に、2学年GSコースの「総合的な探究の時間」について、課題研究型とテーマ追究型を適切に運営する。 ② 英語については、これまでの研究成果を「シン三本木メソッド」として定着させ、実践を通して深化させたことを発信していく。また、中高一貫の特徴を生かすためにも、中高の理数・英語教員の連携を強め、学力の伸長につなげられる方策を検討する。			
5	① 学校ホームページ（HP）や学校説明会、授業公開等による地域への広報活動充実 ② 地域貢献活動の活性化、地域との協働活動の充実	① 学校HPの更新を随時行い、内容の充実を図る。また、上十三地域の中学校を訪問し、本校の教育活動の成果について、理解を深めてもらう。 ② ボランティア活動やお祭りなど地域行事への参加を継続的に行う。	① 学校HPの更新の頻度を上げ、学校行事等本校の教育活動の周知に努めた。また、学校説明会は本校への理解を深めることができ、中学生の体験入学は、暑さ対策のためエアコンのある教室で中学校ごとにオンラインによる説明会を実施した。 ② ボランティアは生徒が自主的に行った活動が中心となった。また、学校が企画した福祉体験を実施した。	B	① 学校HPの情報発信は有効に活用されている。さらに、内容を工夫して、志願者が増えるよう魅力的な情報発信を検討して欲しい。 ② 人と人とのつながりで社会は形成されている。地域貢献活動は、地域の課題解決や人間の成長につながると思うので、継続して取り組んで欲しい。	① 本校の特色や教育活動及び成果をこれまで以上に地域の中学校に認知してもらい、志願者増加に向けた取組みが必要になる。そのために学校説明会や学校HPでの発信に加え、本校の情報を様々な機会を捉えて発信していく。 ② ボランティア活動も含め、生徒が地域と関わり、貢献することを通して、地域に開かれた学校であることを周知していく。			
6	① 教育公務員としての服務規律の確保 ② 相談しやすく、働きやすい職場環境の改善 ③ 多忙化解消によるワークライフバランスの確保	① 教職員の服務規律の確保の徹底について、県教育委員会からの通知や研修資料等をもとに全職員で定期的に確認する。 ② 会議等の場以外でも、教職員間の日常的な情報交換を密にする。また、職員室の談話スペースで談話しやすい環境づくりをめざす。 ③ ワークライフバランスを確保できるよう、業務の効率化を図り、心身の健康を保持する。管理職が率先して休暇を取得し、定時退勤を心がけるなど、休暇を取りやすい環境づくりをめざす。	① 県教育委員会から発表される県内での懲戒処分のGroup Sessionでの情報共有、職員朝会や職員会議等で、非違行為の未然防止を行った。 ② 定期的な学年・分掌会議以外の場でも生徒についての情報交換や学校課題について話し合う場面が見られるようになった。 ③ 学校行事は見直しを行い、全体的な業務量は減ったが、ICTを活用した授業、また、あらたな業務のため職員の業務量は増えている。	B	働き方改革の時代の中にあり、効率化は賛成ですが、生徒への対話は続けて欲しい。 勉強や人間関係で悩んでいる生徒が多いようなので、先生方同士互いに支え合って、生徒に接して欲しい。 教育の質を上げるには、先生が幸せであることが重要である。働き方改革を進めることについて、保護者として協力していきたい。	① 定期的に服務規律の確認を行っていく。 ② 学校行事や各分掌の業務内容を精査し、業務の効率化を図る。 ③ 教職員の家庭における行事がある際は、積極的に休暇を取得するよう促す。業務に余裕ができたら休暇を取りやすい環境づくりのため、管理職が率先して休暇を取得する。			
(11) 総括		今年度の目標は概ね達成されたといえるが、引き続きICTを活用した課題の工夫や学校の活動内容の情報発信など、積極的な取り組みが必要とされている。保護者や地域の方々の評価・意見を受けとめ、学校が抱える課題を1つ1つ解決するよう取り組みを継続したい。							